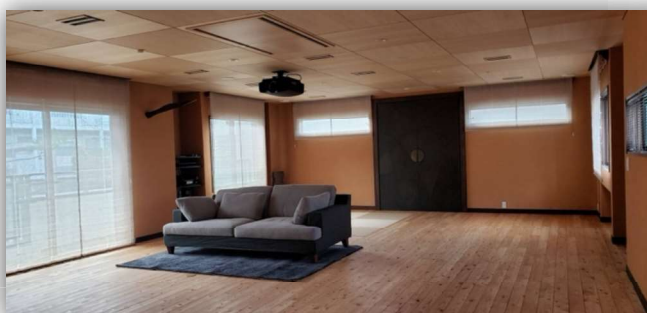


□ 新しい技術だけが本当に必要なのだろうか □

昔から世界が滅ぶ時それは核戦争、感染症、隕石 が衝突した時と言われて来たが、ウクライナがまさかこんな事態になるとは誰が想像出来ただろうか…毎日現地の映像を見て 心が本当に痛むし、日本にだってボタン一つで直ぐに悲劇は起こるのだろうと考えると本当に怖い、そして恐ろしい。哲学者のニック・ボストロムは以前から現代社会が技術革新のせいである種の脆弱性を逆に抱えるようになっていて、 現社会は社会全員の運命がたった一つの不運やたった一人の悪人にかかっているような状況だと強く説いていた。「百万の経典、日下の燈」という諺がある。百万の経典を読んでも実行しなければお日さまの下でローソクを灯すようなもので何の価値もない…今、私たちは「知ったか」を競いあい「頭でっかち」でこの戦争をただ眺めているだけで本当に良いのだろうか。何か動かなければこの悲劇に対して何の役にも立たないということだ。今の世の中、頑張ったね、みんなで手を繋いでゴールが正しいような風潮になっているが、実際はそうではないのだ。大人になって社会を生きれば生きるほど、格差社会に気づいてくるのだ。戦争だって格差社会の何物でもないような気がしてしまう。私は「天知る、地知る、我知る」をこのときだからこそ、心の中心におき、もう一度自分のなすべき使命に向かって頑張っていきたい。こうみえても小生も…くじけそうになったり、逃げたくなったりの連続なのだ。しかしそれを乗り越えご恩を社会に返していきたいと思っている。そして常に人として、何が正しいかを身体の真ん中におきながら、少しお節介な素敵なおじさんを目指していきたいと思う。

遠藤孝浩



スリーゼ 101.ヨガスタジオ

結婚28周年-記念登山-